



## 平成25年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月8日

上場会社名 スギホールディングス株式会社  
 コード番号 7649 URL <http://www.drug-sugi.co.jp/hd>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年1月11日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(氏名) 樹田 直  
 (氏名) 杉浦 昭子

上場取引所 東 名

TEL 0566-73-6300

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年2月期第3四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第3四半期	257,815	5.4	13,982	3.1	16,166	12.1	9,067	△3.7
24年2月期第3四半期	244,550	7.5	13,568	45.1	14,418	36.5	9,414	52.4

(注) 包括利益 25年2月期第3四半期 9,070百万円 (△3.3%) 24年2月期第3四半期 9,383百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年2月期第3四半期	143.20	—
24年2月期第3四半期	148.69	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年2月期第3四半期	165,950	100,374	60.5
24年2月期	154,369	93,205	60.4

(参考) 自己資本 25年2月期第3四半期 100,374百万円 24年2月期 93,205百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	7.00	—	18.00	25.00
25年2月期	—	12.00	—		
25年2月期(予想)				13.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年2月期の連結業績予想(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	340,000	3.9	18,000	4.6	20,000	4.4	11,500	0.6	181.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(その他)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年2月期3Q	63,330,838 株	24年2月期	63,330,838 株
25年2月期3Q	14,101 株	24年2月期	13,676 株
25年2月期3Q	63,317,021 株	24年2月期3Q	63,317,405 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要などを背景にゆるやかな回復の動きがみられたものの、欧州の通貨危機、中国経済の減速などにより足踏み状態となっております。個人消費については、デフレが継続する中、雇用環境や所得などの将来に対する不安感などから、厳しい状況が継続しております。

薬局・ドラッグストア業界においても、積極的な出店と同質的価格競争の中、競争は激しさを増すとともに診療報酬改定に伴う薬価引き下げ等もあり、経営環境は厳しい状況で推移しております。

このような状況下、当社グループは、変化する市場、激化する競争環境に対して的確な判断・行動が俊敏に行えるよう、子会社に対して、お客様と競争相手への施策対応の分権化をより一層推進してまいりました。

また、外部環境が大きく変化する時こそ成長の機会であり、積極的な店舗開発と既存店舗の転換と見直しによる店舗ポートフォリオの再構築に取り組むことが重要との認識から、商圏の拡大・拡充に向けて地域のお客様に信頼され、地域密着度の高い店舗群を擁する強みを生かし、更なる地域浸透密度を高める新規店舗開発・リロケーションおよび業態整備・転換等に注力してまいりました。

以上の結果、売上高は 2,578億15百万円（前年同期比 5.4%増、132億64百万円増）、営業利益は 139億82百万円（同 3.1%増、4億13百万円増）、経常利益は 161億66百万円（同 12.1%増、17億48百万円増）、四半期純利益は 90億67百万円（同 3.7%減、3億47百万円減）となりました。

なお、店舗数は、グループとして 45店舗を新規出店するとともに、7店舗の閉店を行い、当第3四半期末におけるグループ店舗数は 859店舗（前期末比 38店舗増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① ファーマシー事業

ファーマシー事業は、調剤併設型ドラッグストアとして、お客様・患者様の視点から調剤室の改装等による待ち合い環境の改善に取り組むとともに、第1類医薬品の販売に注力してまいりました。また、ヘルスケア商品、ビューティケア商品のお客様へのカウンセリング強化、ホームケア商品の売場での提案・演出や食品の拡大など顧客利便性向上に取り組むとともに、店舗業務の基本徹底、売価管理・売場管理のレベルアップにも取り組み、収益性改善とローコスト化に注力しました。

更に、投資効率を重視した新規店舗開発と店舗群再編成に向けた改装と閉店に計画的に取り組み、既存店の強化を行ってまいりました。

以上の結果、売上高は 2,016億59百万円（前年同期比 6.5%増、122億72百万円増）、売上総利益は 583億24百万円（同 7.7%増、41億72百万円増）、販売費及び一般管理費は 458億47百万円（同 8.9%増、37億42百万円増）、営業利益は 124億77百万円（同 3.6%増、4億30百万円増）となりました。

なお、店舗数は、新規出店を 42店舗、閉店を 6店舗行い、第3四半期末店舗数は 707店舗（前期末比 36店舗増）となりました。

#### ② ドラッグ事業

ドラッグ事業は、更なる成長を図るため、ファーマシー事業との一層の棲み分けを行うべく品揃えや提供方法の見直しを行い、ヘルスケア商品の拡大やホームケア商品、食品の品揃え強化を進めてまいりました。また、地域ニーズに合わせた日配食品、素材冷食、衣料品を取り扱う新規店舗の出店を行う等、新たな取り組みを行うとともに、ローコストオペレーションに向けたパート社員による店舗運営体制づくりや品揃え商品数量の見直しなどに取り組みました。

更に、積極的な出店とともにファーマシー事業からの業態転換も実施し、店舗編成の見直しを行ってまいりました。

以上の結果、売上高は 561億57百万円（前年同期比 1.8%増、9億72百万円増）、売上総利益は 117億14百万円（同 1.8%増、2億9百万円増）、販売費及び一般管理費は 92億1百万円（同 1.1%増、1億円増）、営業利益は 25億13百万円（同 4.6%増、1億9百万円増）となりました。

なお、店舗数は、新規出店を 3店舗、閉店を 1店舗行い、第3四半期末店舗数は 152店舗（前期末比 2店舗増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

総資産は、商品の増加及び有価証券の増加等により、1,659億50百万円（前連結会計年度末に比べて115億81百万円増加）となりました。負債は、買掛金の増加等により、655億76百万円（同44億11百万円増加）となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により、1,003億74百万円（同71億69百万円増加）となり、自己資本比率は60.5%（前連結会計年度末比0.1%増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年4月10日に公表いたしました連結業績予想の修正は行っていません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。なお、この変更による損益への影響は軽微であります。

(追加情報)

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	37,556	39,380
売掛金	7,938	9,560
有価証券	12,683	13,400
商品	36,798	41,083
その他	8,194	8,600
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	103,171	112,023
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	19,347	20,935
その他(純額)	9,621	10,797
有形固定資産合計	28,968	31,733
無形固定資産		
投資その他の資産	2,343	2,205
差入保証金	14,397	14,719
その他	6,107	5,891
貸倒引当金	△618	△622
投資その他の資産合計	19,886	19,988
固定資産合計	51,198	53,927
資産合計	154,369	165,950

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	36,077	41,574
未払法人税等	3,700	1,361
賞与引当金	1,017	1,341
その他	13,586	14,053
流動負債合計	54,382	58,331
固定負債		
退職給付引当金	2,328	2,595
資産除去債務	2,638	2,807
その他	1,815	1,841
固定負債合計	6,782	7,245
負債合計	61,164	65,576
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	15,434	15,434
資本剰余金	24,632	24,632
利益剰余金	53,160	60,328
自己株式	△34	△35
株主資本合計	93,193	100,359
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	14
その他の包括利益累計額合計	11	14
純資産合計	93,205	100,374
負債純資産合計	154,369	165,950

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
売上高	244,550	257,815
売上原価	178,893	187,775
売上総利益	65,657	70,039
販売費及び一般管理費	52,088	56,057
営業利益	13,568	13,982
営業外収益		
有価証券評価益	—	718
受取賃貸料	966	913
受取手数料	571	593
その他	1,004	841
営業外収益合計	2,542	3,066
営業外費用		
有価証券評価損	764	—
賃貸収入原価	811	749
その他	116	132
営業外費用合計	1,692	881
経常利益	14,418	16,166
特別利益		
子会社株式売却益	909	—
還付消費税等	1,432	—
その他	121	—
特別利益合計	2,463	—
特別損失		
減損損失	370	255
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,182	—
その他	283	—
特別損失合計	1,836	255
税金等調整前四半期純利益	15,045	15,911
法人税、住民税及び事業税	5,604	5,872
過年度法人税等	608	—
法人税等調整額	△581	971
法人税等合計	5,631	6,844
少数株主損益調整前四半期純利益	9,414	9,067
四半期純利益	9,414	9,067

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,414	9,067
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△30	2
その他の包括利益合計	△30	2
四半期包括利益	9,383	9,070
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,383	9,070

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	189,373	55,177	244,550	—	244,550
セグメント間の内部 売上高又は振替高	13	8	21	△21	—
計	189,386	55,185	244,572	△21	244,550
セグメント利益	12,046	2,403	14,450	△881	13,568

(注) 1. セグメント利益の調整額△881百万円には、セグメント間取引消去7百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△888百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、賃貸資産及び遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額370百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「ファーマシー事業」で278百万円、「ドラッグ事業」で37百万円となっております。また、報告セグメントに帰属しない賃貸資産において54百万円計上しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	201,657	56,157	257,815	—	257,815
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	—	2	△2	—
計	201,659	56,157	257,817	△2	257,815
セグメント利益	12,477	2,513	14,990	△1,008	13,982

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,008百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,008百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、賃貸資産及び遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 255百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「ファーマシー事業」で 187百万円、「ドラッグ事業」で 67百万円となっております。また、報告セグメントに帰属しない賃貸資産において0百万円計上しております。